

第4号  
2005年11月



◇新潟まち遺産の会会報 第4号  
2005年11月8日発行  
◇新潟まち遺産の会 (代表 大倉 宏)  
〒951-8066  
新潟市東堀前通1番町353  
E-mail: machi-isan@eat.ne.jp  
TEL 025-228-2536 / FAX 025-228-2537  
<http://www.najiranet.com/niigata-machi-isan>

## 港・堀割・廻船問屋—下町のお宝でシンポジウム

10月9日(日)、『新潟の湊と堀と町並み「廻船問屋小澤邸」周辺と下町の堀』をテーマにシンポジウムを開催しました。新潟まち遺産の会が昨年以來続けてきた、新潟町建て350年記念シンポジウムの第3弾でした。新潟まち遺産の会、堀割再生まちづくり新潟、下本町商店会、新潟商工会議所、新潟市と主催者が多彩になりました。「湊と堀と商家の町だった新潟の町の原点を考えてみたい」という意図に相応しいシンポジウムに約130名の市民が集まりました。

伊東祐之さん(新潟市歴史博物館学芸課長)の基調講演「堀と湊と廻船問屋」、川上伸一さん(堀割再生まちづくり新潟代表)の「下町の堀」と、新潟大学都市計画研究室の「廻船問屋街『上大川前通』の町並み」の二つの報告などのあと、篠田市長も加わってパネルディスカッションが行われました。

印象的な発言を以下に挙げました。

小澤瓊子さん 「昔の家を崩したら二度と建てられない。建物だけでなく先人が残してくれた文化まで失うことになる」

「下町は暮らすに便利なところ、人間関係も優れている。若い人に住み着いてもらいたい」

川上伸一さん 「下町の空は広い。人間的なスケールで町がつくられていることを実感した」

「これから先の100年をどうしていくかを考えていくのが大切なことだろう」

高取サト子さん 「ウェルカム下町推進委員会をたちあげて3年になる。早川堀を意識していなかったが

『堀』を囲むようにメンバーが増えた」  
長谷川守英さん 「今日、午前中に実施した『しもまち新潟ウォーク』は今年で11回目の開催になった。今年は約260名の参加者だった。下町が元気になるよう努力している」

伊東祐之さん 「暮らしている人が町をつくる。新潟は他人に自分の町を語ることをしなかったが、いま、それを語り始めた。社会が変わってきたということだろう」

篠田昭市長 「政令指定都市を目指している新潟市にとって下町は原点ともいうべき地域だ。地元がやる気になって動き出せば市としても後押ししやすくなる。期待している」

中身の濃いシンポジウムになりました。(皆川袈裟雄)



廻船問屋だった小澤さんの家。町屋の形をよく残している。

### 〈にいがた町屋マップ2005〉完成しました

かねてより制作中だった「町屋マップ」が完成しました。会員の皆様に1部ずつお送りいたします。春には、このマップを片手に、町歩きを企画しています。日取り等が決まったらお知らせします。ふるってご参加下さい。

## 柏崎の赤煉瓦棟の保存運動

柏崎で旧日本石油柏崎製油所の保存に取り組んでいる「赤れんが棟を愛する会」の村山康成さんから、次のようなご寄稿をいただきました。柏崎工場は、日本の石油産業の歴史を証言する希有な施設でした。

柏崎の赤れんが棟は絶体絶命の状況から取り組みが始まりました。明治期に開業し、100年以上も製油所、研究所として操業を続けた柏崎工場が平成13年に閉鎖。この5月から突然（と感じられた）解体工事が始まりました。閉鎖してから、行政からも市民からも保存や活用についての声が出なかったことから解体の決定となったものです。

わたしもそうですが、赤れんがの倉庫や工場の存在は知っていたものの、実際に敷地に立ち入って見たことのある市民はほとんどいません。解体着手では「他人事」だったと思います。ところが、7月下旬に有志で工場を見学させていただき愕然としました。もう工場内にほとんど建物や設備は残っていないのです。それにも増して赤れんがのドラム缶倉庫の存在感。何がなんでも現存する赤れんが棟だけでも



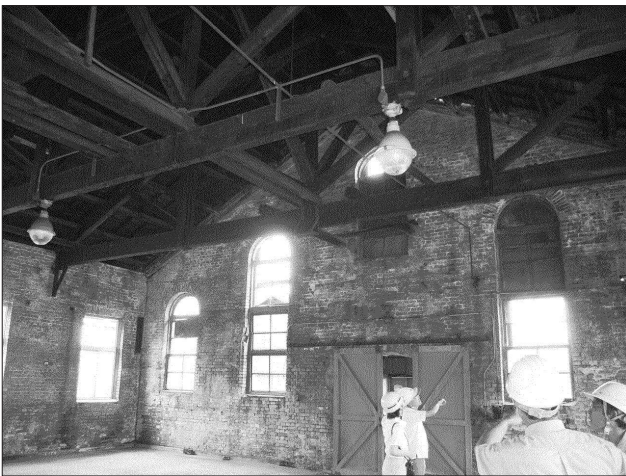
残したい。まちづくりの活動経験もない有志が署名や募金を行うようになる原動力は、この時の衝撃であったと思います。

柏崎工場の困難さは、有機溶剤等の投棄で敷地を土壤改良する必要があることです。新日本石油は、社会的責任を果たす意味で建物、設備を全て撤去して土壤処理を行う考えです。すでに取り壊し工事は始まっていますので、会社の決定とそれを了承した行政の方針を覆す必要があります。

困難を極める保存運動ではありますが、わたしの気持ちとすれば、古い遺産を失ったまちは、帰る故郷を失ったようなものであるとの思いで試行錯誤しています。また、特筆すれば、柏崎の運動は行政への働きかけを行いながら、保存改修に要する費用を募金で調達する考えであるということです。ぜひ応援をお願いいたします。

保存運動のブログはこちらです。

<http://blog.goo.ne.jp/rengasoko/>



赤煉瓦棟の内部

## もう一つの赤煉瓦倉庫

柏崎だけでなく、沼垂にも沼垂日石の古い煉瓦倉庫が残っています。9月13日午後から煉瓦倉庫見学会（外観のみ）を開催し、30名（水辺の会、グリーンシグマ、新潟大学学生）の参加がありました。

倉庫は大正時代の建物で煉瓦はイギリス積みと呼ばれるものです。見事な建物ですが、石油が染みこんでおり、柏崎と同様に土壤は汚染されているかもしれません。海外でも石油精製施設が産業化遺産となっている例は聞いたことがなく、今後この倉庫が取り壊されることがあれば貴重なまち遺産が失われることになるでしょう。



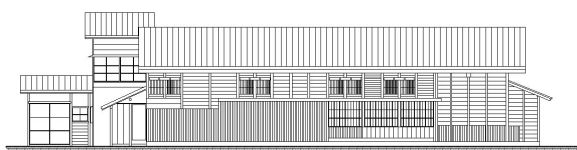
沼垂日石の赤煉瓦倉庫

## メーリングリストへ登録しませんか

会員の皆様の交流の場となるメーリングリストを準備中です。ふだん顔を合わせることの少ない会員の方々の、インターネットでのおしゃべりの場です。まちの遺産について日頃思うこと、町で発見したお宝、町の遺産をみた感想など、どんどん書き込んでください。

メーリングリストに参加するには、前もってメールアドレスを登録していただく必要があります。次のアドレスにお名前と登録希望と書いてメールをお送りください。

machi-isan@eat.ne.jp



### ◇◇◇◇◇東厩島町の町屋再生◇◇◇◇◇

3年前の夏に解体された新潟市東厩島町の町屋の部材が、解体された状態で4回目の冬を越すこととなります。シートはかけていますが、屋外保管で、決して理想的とは言えない状況であり、部材の状態も心配です。市民の貴重な募金で解体された部材をなんとか「再建」という形で生かしたいという思いを持ちながら、まち遺産の会がスタートしてから、次から次と現れる課題に取り組まなくてはならず、時間ばかりが過ぎてしまいました。

そこで、この秋には世話人会では「町屋再生プロジェクトチーム」を作り、具体的な再生案と、その実現の方法を検討していきたいと思います。方向としては「新潟下町に」「なんらかのオープンな拠点施設」として再建する案を、模索したい考えです。ある程度の具体的なプランをもとに、他の市民団体や行政とも意見交換を進めていきたいと思います。(大倉宏)

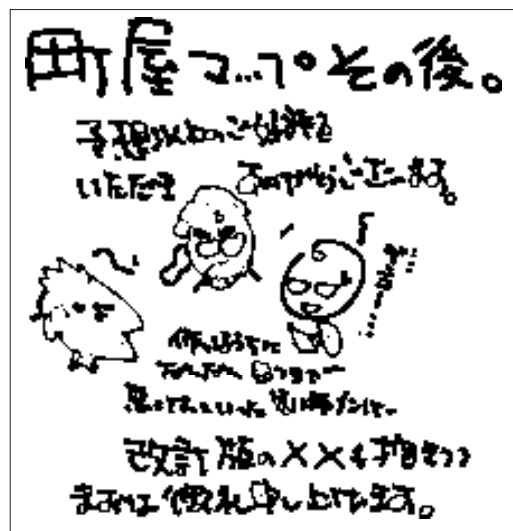


部材の現状

## メーリングリストとは

リストアドレスと呼ばれるメールアドレスに、メンバーのメールアドレスを登録しておきます。そしてリストアドレス宛てにメールが送られてくると、そのメールを、あらかじめメンバーとして登録されているアドレスすべてに配信するシステムです。同じ内容のメールをメンバー全員にすばやく、もれなく配信することができます。

配信はメンバーであれば誰でもおこなうことができますので、メールを用いた電子会議のように使用することもできます。



上田浩子・画

## 加賀田邸の保全

新潟市西大畑町にある加賀田邸は、大正7年に東堀通7の斎藤家（あの燕喜館の斎藤家）の夏の別邸として建てられました。戦後GHQに接収された後に加賀田家の所有になったという歴史があります。

行形亭の西隣の敷地には、斜面に沿って大きな庭が作られ、滝川が流れ池に注ぐ風景は都会の別天地として、茶会などで訪れる人の目を驚かせ、その美しさは新潟の趣味人たちの間で語り継がれてきました。

現在のその屋敷と庭園は、加賀田家の手を離れ、その保全が危ぶまれています。当会としても、様々な市民、文化団体と協力して、新潟の貴重な「まち遺産」の保全を求める活動を展開していきたいと考えています。皆様の御協力をお願いします。(大倉宏)

